



# サガハイマツト通信

Vol.28  
(2020年9月号)

topic

## 新型コロナウイルス等への対策を行っています



受付前に設置している検温カメラ

当センターでは、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策として、発熱等の諸症状がある方は、事前に地域連携室へのご連絡をお願いしています。

受付前に検温カメラを導入し、体温測定とマスク着用の確認を行うほか、患者様の安心につながればと、低濃度オゾン発生装置を患者様の待合エリアに2カ所設置しています。

これからもサガハイマツトは、新型コロナウイルス感染症等の防止に努めて参ります。



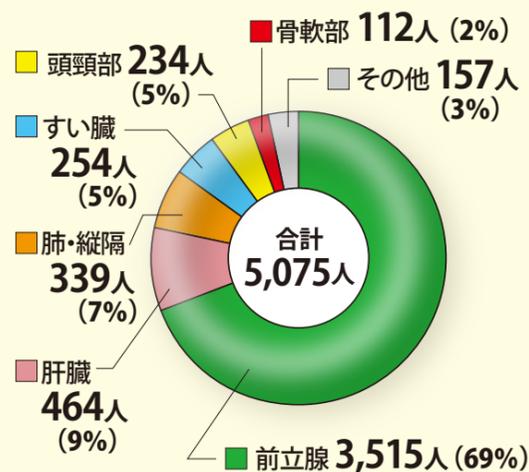
待合エリアに2カ所設置している低濃度オゾン発生装置

## データで見るサガハイマツト

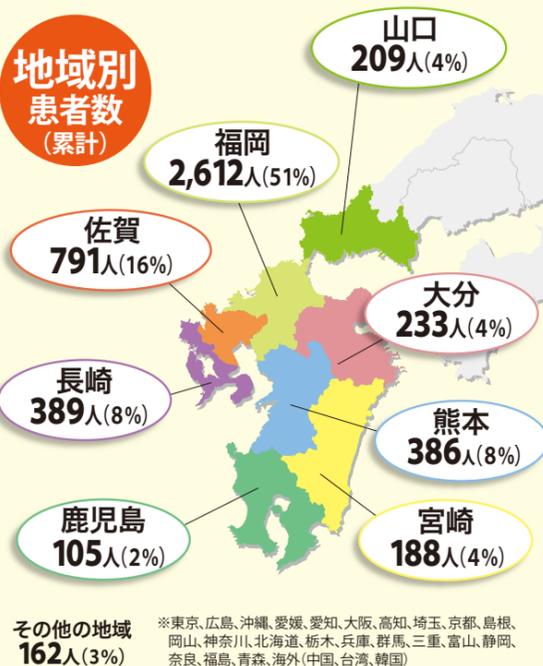
(2020年8月末日現在)

### 部位別患者数 (累計)

※その他は、直腸(骨盤内再発)、腎臓、リンパ節他



### 地域別患者数 (累計)



## 治療患者数、5,000人突破

- CONTENTS
- 中川原 章 理事長、塩山 善之 センター長 インタビュー
  - データで見るサガハイマツト
  - 新型コロナウイルス等への対策を行っています

### ● 寄附をお願いします ●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお祈りします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 Vol.28

(2020年9月号)

【お問い合わせ】  
 発行 ■ 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当) 本村  
 所在地 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地  
 TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905  
 HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**  
(受付時間: 平日の9時~17時)  
 メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)

## 九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)

2019年度  
治療患者数 過去最高の1052人

中川原 章 理事長  
×  
塩山 善之 センター長  
インタビュー

## サガハイマツトの現状とこれからの展望

ことし8月で治療開始から丸7年を迎えた九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)。重粒子線がん治療部位の公的医療保険の適用が拡大され、治療環境が変化中、日々よりよい医療の提供に努めています。サガハイマツトの現状と展望を中川原章理事長と塩山善之センター長に聞きました。

▼サガハイマツトは2013年8月27日の治療開始以来、治療患者数が今月5千人を超えました。これまでの推移をご紹介ください。

中川原理事長(以下中川原) 2013(平成25)年の治療開始から、ちょうど7年が経ちました。治療開始からこれまでに、重粒子線がん治療を取り巻く環境は大きく変化しました。先進医療として行ってきた重粒子線がん治療は、15(平成27)年度から17(平成29)年度の3年間、年間患者数は620～650人で推移していました。このような中、16(平成28)年度に切除非適応の骨軟部腫瘍が、18(平成30)年度には限局性の前立腺がんや頭頸部がんの一部が公的医療保険の適用となり、サガハイマツトで治療を受ける約4分の3の患者さんが保険の対象となりました。公的医療保険の適用となった部位に関しては高額療養費制度を利用すれば、重粒子線がん治療を実質10万円前後で受けられるようになり、患者さんにとって身近になったことはとてもうれしく思っています。重粒子線がん治療を希望する患者さんの増加に対応するため、受け入れ体制を強化した結果、昨年度の年間治療患者数は過去最高の1052人となりました。これも、全スタッフが一丸となって頑張ってくれたおかげだと、大変感謝をしています。

▼部位ごとの治療実績状況はいかがですか。

塩山センター長(以下塩山) 現在、5千人を超える治療実績があり、約7割は前立腺がんの患者さんです。次いで肝臓がんが約9%、肺・縦隔が約7%、すい臓、頭頸部がそれぞれ約5%、骨軟部約2%となっています。前立腺がんの割合が大きいのは、治療開始当初から治療の対象部位だったことと公的医療保険適用と

なったことが要因と言えます。今後も、前立腺がんの患者さんのニーズに応えつつ、さらに多くの肺・肝臓・すい臓など他の部位の患者さんのニーズにも応えていきたいと思えます。

また、前立腺など一部の疾患においてご相談をいただいてから受診まで多少時間がかかっていましたが、できるだけお待たせすることなく受診していただけるようセンター職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

## 日本が誇る医療を世界へ

▼塩山センター長は、約1年半ぶりにサガハイマツトに復帰されました。外部から見ていたサガハイマツトの印象はいかがでしたか。

塩山 サガハイマツトには立ち上げ当初から関わっていて、副センター長、センター長を務めさせていただいていたわけですが、1年半ほど九州大学病院勤務となり、外からサガハイマツトを見るという貴重な経験となりました。サガハイマツトは、医療連携をしている病院からはもちろん、九州各地の病院からも高い評価をいただいていることが改めて分かり、誇らしく思いました。しかしながら、重粒子線がん治療の仕組みや治療法、適応、臨床的有用性などは、他診療科の医師はもちろんのこと、放射線科の医師においても、まだ熟知されているとは言えない部分があることもわかり、今後も、もっと正しく理解してもらえるようにさらなる情報提供に努めていかねばならないということを感じました。

▼2年前、最新技術であるスキャニング照射がで



佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長

中川原 章氏

なかがわら・あきら

九州大学医学部卒。千葉県がんセンター長を経て、2014年4月、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事長に就任(18年3月まで)。15年6月から公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長に就任。鳥栖市出身。



九州国際重粒子線がん治療センター長

塩山 善之氏

しおやま・よしゆき

九州大学医学部卒。同大学大学院医学研究科・重粒子線がん治療学講座教授を経て九州国際重粒子線がん治療センターに着任。副センター長、センター長を歴任。2019年から1年半、九州大学勤務を経て今年7月から現職。

きる新治療室が加わり、さらにさまざまな症例の患者さんの治療に対応できるようになりました。改めてそれぞれの治療室の特徴や、どのような症例の患者さんに適しているのか教えてください。

塩山 18(平成30)年3月に新治療室C室が稼働し、従来からのA室、B室に加え治療室が3室となりました。まず、A、B室は、パッシブ照射という照射法で治療を行います。安定した実績のある照射法で、A室は水平と45度の方向から、B室は水平、垂直方向からビームを照射することができます。また、呼吸に合わせて照射を行う呼吸同期照射により、肺や肝臓など呼吸で動く臓器のがんにも確実な照射が期待できます。C室は、スキャニング照射という照射法で、細いビームを高速に動かしながら患部を細いペンでなぞるように照射します。複雑な形をした腫瘍や、患部の周りに重要な臓器が近接する場合などに適しているため、前立腺だけでなく、頭頸部のがんなどに威力を発揮しています。また、照射できる範囲も25%程度と広いので、子宮がんの場合ですと骨盤内のリンパ節領域を含めて照射が可能です。治療を行う際には、双方の特長を生かしつつ患者さんごとに最適な照射法を行っております。

なお、患者さんごとの治療方針については、部位や腫瘍のタイプ、病態などにより総合的に判断します。そのため、治療対象部位ごとに九州内外のそれぞれの専門領域の内科や外科などの先生方を部位別腫瘍検討班の班長・班員として迎え、症例の検討を行いながら定めています。

▼新型コロナウイルスの感染拡大で、サガハイマツトの治療に影響は出ませんでしたか。また、

新型コロナウイルスへの対策などはどのようにされていますか。

塩山 先程お話しした部位別腫瘍検討班の会議については、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、現在、対面での開催は難しくなりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大以前から毎月ウェブ会議も行っていただいていたので、今は、それを全面的に活用して症例検討を行っています。ご協力いただいている先生方には本当に感謝しております。

また、サガハイマツトは、がん患者さんを治療する施設ですから、初診の時から患者さんそれぞれの治療スケジュールが決まっています。「新型コロナが心配だから治療を中断します」というわけにはいきません。

従って、新型コロナウイルスに対応する設備やスタッフの健康などにも日々留意し、治療を行っています。例えば、正面玄関に検温カメラを設置し、訪れた人の体温チェックやマスク着用の確認などを行っています。センター内のこまめな消毒はもちろん、患者さん同士が向かい合わないよう待合室のレイアウトを変更しました。当然のことながらスタッフのマスク着用、手指消毒も徹底しています。

▼今後のサガハイマツトの課題、展望は。

中川原 重粒子線がん治療は日本で開発された世界に誇る最先端医療です。患者数は日本が圧倒的に多いのですが、重粒子線がん治療に対する世界の放射線治療医の関心は高く、今後日本の技術を世界に示す機会が訪れると思います。

ただ、公的医療保険適用の拡大や、医師や技術者の人材確保など、全国の重粒子線がん治療施設共通の課題もあります。重粒子線がん治療施設は現在国内に六つ。秋以降には山形大学が加わり七つになります。この七施設が連携・協力し、共通の課題解決に臨む必要があります。一つは、一致協力して、臨床試験を積み重ね、科学的根拠や効果を発信すること。もう一つは、重粒子線がん治療施設の安定的経営のために医療経済的な分析をきちんと行い、診療報酬に正しく反映されるよう検討を進めていくことです。

日本で、重粒子線がん治療が始まった頃は、治療が公的医療保険の適用となったり、技術が現在のように進化するとは想像もできませんでした。「夢を追えば実現する」と、サガハイマツトを通じて実感しているところです。ほかの施設とも連携し、将来的に世界中のがんと闘っている人たちに重粒子線がん治療が届くよう努めていきたいと思えます。